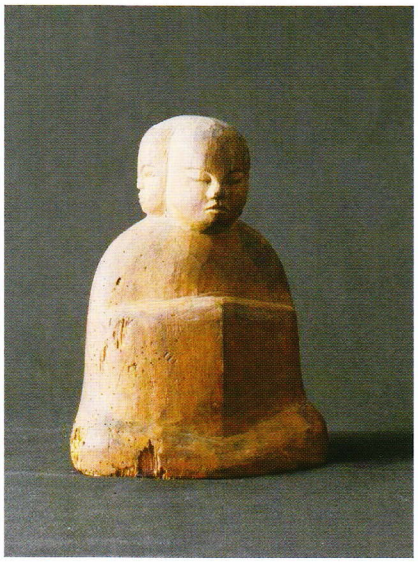
回覧

楽しい郷土史だより　第12号

裾野市指定文化財「木造四面女神像（もくぞうしめんじょしんぞう）」「木造随身像（もくぞうずいしんぞう）」

令和５年２月 22 日、裾野市の指定文化財として新たに２件の像が指定されました。今回の郷土史だよりは、これらの像と、それを伝える茶畑浅間神社を中心にお伝えします。



（木造四面女神像）

この像は顔を前後左右の四面に配するめずらしい神像で、頭髪と正面の持物、衣文を墨で書いており、長い頭髪から女神像とわかります。制作年代は平安時代後期（11～12 世紀）と考えられます。

平安時代前期（９世紀頃）は、富士山が活発な噴火活動をした時期で延暦 19 年（800）と延暦 21 年（802）に発生した噴火「延暦大噴火」、貞観６年（864）から貞観８年（866）にかけて発生した大噴火「貞観大噴火」が記録されています。

噴火は争いや悪病流行の前兆として恐れられていたため、噴火を鎮める願いを込めて浅間神社が祀られてきましたが、富士信仰に関わる古い記録では、浅間大神は女神とされていたことが知られています。

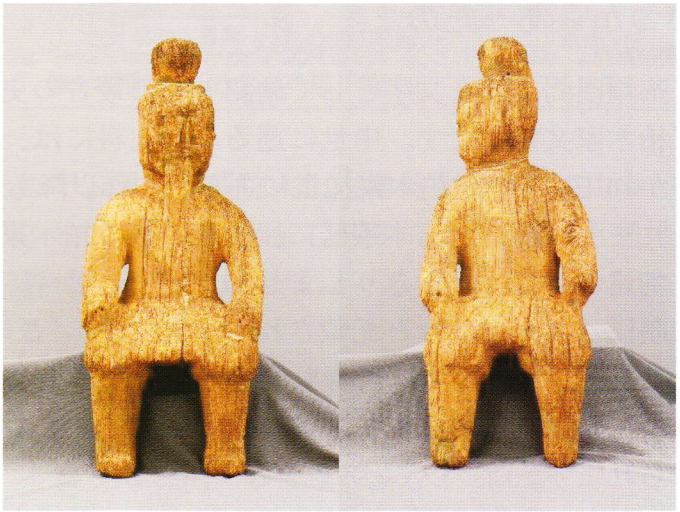
四面に顔を配した女神像の形は、四方八方から見ることが出来る富士山をモチーフにしているとも考えられます。女神像は古代における富士山信仰のかたちや、それに寄せた人々の想いを我々に教えてくれる貴重な神像ということができます。

なお、山梨県南アルプス市にある江原浅間神社には、背中合わせに三方を向く女性像（女神）と、その上に半身の仏像（如来）が乗った木造浅間神像が伝わっています。この像は、一本の木材から彫りだした高さ 40.5cm、表面に着衣などの彩色を伴うもので、国の重要文化財に指定されています。

（木造随身像）

神域や神前を守る二体一対の随身像で、一体は正面を向き髭をあらわしますが、一体は首を大きく曲げて右を向くのは他に例を見ない姿です。木造四面女神像と同じく平安時代後期の製作と考えられます。

静岡県内には古代の随神像がほとんどなく、風雨にさらされ風化が激しいですが本像は貴重な作例と言えます。



上原美術館　田島整氏撮影

なお、静岡県『静岡県史』第三巻（昭和 11 年）によれば、茶畑浅間神社には木造四面女神像と同様に四面を表し頭頂に髪を結い、左手を下げ右手をやや上げる像高 60cm ほどの女神像や、一木造で智拳印を結ぶ像高 47cm ほどの大日如来像が伝来していたとされています。現在それらの像の所在は不明となっていますが、本像の指定を契機にその所在が明らかになることも期待されます。

ＱＲコードから木造四面女神像の３Ｄデータ画像を見る事が出来ます。
ぐるぐる回転させながらあらゆる方向から像を見ることができるので、
是非体験してみてください。

木造四面女神像 by susono city on Sketchfab